地歴公民(地理)　京都大学　(前期)

＜全体分析＞

試験時間　９０　分

解答形式
　客観式（用語・地名の選択，統計判定），記述式，論述式
分量・難易（前年比較）　分量（減少・変化なし・増加）　難易（易化・変化なし・難化）
　大問４題，客観式・記述式の解答個数は昨年とほぼ同数。論述式は，字数指定のある設問のほか，本年は字数指定のない短文論述が例年になく多かった。論述式で字数指定のあるものは８問（昨年は12問），総字数は340字（昨年は580字）だが，字数指定のない短文（1問につき20～30字程度の解答枠）が８問あり全体の字数は昨年と比べやや少ない程度である。大問ごとでは，Ⅰで字数指定のあるもの１問（80字），指定がないもの３問，Ⅱ同２問（100字）と２問，Ⅲ同１問（50字）と３問，Ⅳ同４問（110字）となっている。設問ごとの字数は最短20字，最長80字であった。題意の不明確な論述問題がなく，Ⅰの地形図読図の論述量が昨年の読図問題に比べ大幅に少なく，統計判定問題が易しかったことなどから，難易度は過去５年で最も易化した。
出題の特徴
　本学の大問は，自然（または地図），産業，社会および地誌の４分野から構成されることが多い。本年度はⅠが地形図の読図，Ⅱが産業，Ⅲが地誌，Ⅳが自然分野からの出題で，自然分野のウェイトが高かった。近年は，図表の読み取りを求める設問が多く，本年度はⅠで地形図，Ⅱで統計表，Ⅲで地図，Ⅳで衛星写真が使用された。
その他トピックス
　Ⅱの表２（国名判定）は，塾生を対象とした京大直前期指導ゼミの地理テキストと同一の内容であった。

＜大問分析＞

番号	出題形式	出題分野･テーマ	コメント（設問内容・答案作成上のポイントなど）	難易度
Ⅰ	客観式 記述式 論述式	地形図の読図	沖縄県宮古島市城辺の５万分の１地形図使用。論述式は(5)陸地の形状（80字）のほか，(2)河道の特徴，および(8)さんご礁の経済機能。客観式・記述式は，さんご礁の形態，水の確保，農業的土地利用など。(5)では，北西～南東方向に走る複数の急崖に注目することがポイント。	標準
Ⅱ	客観式 記述式 論述式	貿易	貿易に関するリード文，国別輸出入品（統計表）と世界の上位港湾（統計表）。論述式は(4)垂直貿易（50字）および(5)自由貿易協定（50字）の説明のほか，国の経済規模と貿易の関係，上位港湾の変化の趨勢。客観式・記述式は，表の品目や港湾名の判定，国際分業など。論述の(4)(5)は用語の定義なので取り組みやすく，統計表の判定も比較的易しい。	やや易
Ⅲ	客観式 記述式 論述式	地誌 アフリカ大陸	アフリカ大陸の地図使用。論述式は(4)カッパーベルトの銅鉱開発と中国の援助（50字）のほか，数理国境が多い自然的歴史的理由，アパルトヘイト廃止後の課題。客観式・記述式は，図中の経緯度間隔，南スーダンの独立など。(4)は現行教科書に記載がなく，今とは情勢が異なるので，困惑した受験生が多かったのではないか。	やや易
Ⅳ	記述式 論述式	Ａ　土壌 Ｂ　地形	Ａは土壌に関するリード文，Ｂはヒマラヤ山脈南斜面の衛星写真を使用。Ａ．論述式は(3)合衆国の企業的穀物農業の特色（30字），(4)タイガの特徴（20字），記述式は，土壌名，母岩名や土壌に関する用語。Ｂ．論述式は(7)カールの名称・成因（30字），(8)氷河湖の名称・成因（30字）。どちらも衛星写真だけから判断するのは難しいが，問題文をヒントに考えればわかる。	やや易

※難易度は５段階「難・やや難・標準・やや易・易」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

＜学習対策＞

　教科書を利用した基本知識（地名や用語）の蓄積は当然だが，論述式への対応として，基本的な地理用語の語義，自然や人文現象の地域的な違いとその理由・背景などについて，簡潔に（20字～100字程度）ポイントを絞って書く練習を繰り返すことが必要である。加えて，地形図や統計図表の読み取りなど，地理的技能や思考力を試す出題が多く，難易度も高いので，日頃から図表の読解力を高めるよう心がけたい。なお，「日本の産業構造とその変化」や「都市・人口・交通」のように出題頻度の非常に高いテーマもみられるので，過去問の研究は不可欠である。

© 河合塾　2015年